

マハー・ヴァイローチャナ Mahā Vairocana

マハー・ヴァイローチャナ
大日如来(摩訶毘盧遮那如来)

2016 Jan
学報 Vol.73



Contents

- P.1 就任のごあいさつ
- P.2 旧制高野山大学設立(紫雲寮)時代～高野山大学史#06 木下 浩良
- P.3 第3回 弘法大師の足跡を訪ねよう
- P.5 オープンキャンパス
- P.6 学園祭(曼荼羅祭)
- P.7 高野山大学フジキン小川修平記念講座
- P.8 臨床宗教教養講座
- P.9 大学通信・日録(7月～12月)
- P.10 同窓会だより 第48号
お大師さまのお言葉・講師派遣制度をご利用ください・寄付金のお願い
- 綴じ込み 特集 道を歩む卒業生たち 河島 正行 さん・平成28年度 入学試験日程
特集 —発心したニュータイプ僧侶— 西 あずさ さん

KOYASAN UNIV.
高野山大学
<http://www.koyasan-u.ac.jp>

Mahā Vairocana

大日如来(摩訶毘盧遮那如来)
マハー・ヴァイローチャナ

高野山大学 学報 Vol.73

2016年1月1日(1月・7月号2回)発行
発行人/和田 友伸 編集/企画課

発行所/高野山大学 〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385
TEL. 0736-56-5445 FAX. 0736-56-2746

印刷所/コンダ印刷株式会社

お大師様のお言葉

人間学科助教 坂口太郎

「物の荒廃は、

必ず人に由る。

人の昇沈は、

定めて道に在り」

〔統遍照發揮性靈集補闕鈔〕巻第十「綜藝種智院式并序」より

天長五年(八二八)十二月十五日、弘法大師は、庶民教育を目的とした綜藝種智院を設けた。右の二文は、その趣意文の一節である。その意味は、「物が盛んになるか廢れるかは、必ずその人次第である。人の浮き沈みは、必ずその人の道理の学び方にある」というものである。

現在、多くの大学は、激しい変革の波と十八歳人口の減少によって、危機的な状況に直面している。学問のあり方も、教育のあり方も、市場原理の導入により、重大な変化を迫られているのである。しかし、単に効率を重視した表面的な改革は、将来に禍根を残すだけであろう。

いま、高野山大学は、創立百三十周年の記念すべき年を迎えようとしている。われわれは大師の精神を道標として、日々の研究と教育に真摯に向き合わなければならない。

(二〇一五年十二月十五日)

講師派遣制度をご利用ください

各機関(本山・宗団・同窓会・宗務支所・高野山真言宗寺院)さまへの本学教員の講師派遣は、大学公務として取り扱っております。

【講師派遣お申込み手順】

1. ご希望の講師名、日時、場所、講演テーマを、本学総務課へご連絡ください。
・お電話 0736-56-2921
・F A X 0736-56-2746
・H P <http://www.koyasan-u.ac.jp/info/dispatch>

2. 講師との調整がとれ次第、依頼主さまへ折り返しご連絡いたします。
3. 「講師派遣依頼書」を提出してください。HP掲載の様式をお使いください。

【注意事項】

1. 講演料(手取り額)
60分 ¥20,000 90分 ¥30,000
※講演料のみを講師に直接手渡してください。

寄付金のお願い

高野山大学では、同窓生をはじめ、皆様からの寄付金を募集しております。

これは、現在取り組んでいる、高野山霊宝館との連携や学習・就職支援室の運営などをはじめ、大学での教育・研究活動の充実と質の向上を目的とした寄付金の募集でございます。

頂戴いたしました寄付金は、
○大学の設備・備品費などの諸経費
○地域との連携事業の経費
○学習・就職支援室の活動費
などに用いさせていただく予定でございます。

高野山大学では、学生や社会に選ばれる大学を目指し、「魅力ある学校づくり」をキーワードに、これからも様々な教育改革に取り組んでまいります。皆様におかれましても、高野山大学への引き続きのご支援

を心よりお願い申し上げます。

この趣旨にご賛同いただける方は、お手数をお掛けいたしますが、高野山大学総務課(電話0736-56-2921、FAX0736-56-2746)までご連絡ください。ご連絡をいただきました方には、大学から、

- 寄付申込書
 - 寄付金用振替用紙
 - 返信用封筒
- をお送りさせていただきます。なお、寄付金は、一〇二〇円以上とさせていただきます。皆様のご支援とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

【ご注意】今回の学報に同封しております振替用紙は、同窓会費の振替にのみご利用ください。

(表紙:西 あずささん)

一念通天

Masayuki Kawashima

ROAD_RUNNER

亡き戦友への想い

11月8日大阪府立体育館第二競技場、私はOFB(オyajifaitボクシング)関西地区R40スーパーバンダム級タイトルマッチのリングへ上がりました。試合は終始ペースをにぎり3対0のフルマークで、念願の新チャンピオンとなりました。ボクシングと高野山大学、何のつながりもないようですが…実は私、最終学歴は高野山大学卒であります。現在は不動産会社に勤務し、またそのかわらでアマチュアボクサーでもあります。

まずはボクシングの話題の前に、学生時代のことをお話します。在学時は社会学科(社会福祉学専攻)で児童福祉学を学び、福祉実習を教護院で過ごした2週間は今も良い思い出です。クラブ活動では野球部に所属、当時高野山大学は、最下位の3部リーグと低迷しており、メンバー全員で強くなるよう試行錯誤を繰り返して、2部リーグへ昇格しました。毎日の生活の場は紫雲寮です。朝夕の勤行、掃除、ご飯の用意等は寮生活ならではの貴重な体験でした。授業とクラブ活動の合間はアルバイト。学費援助は四年間の授業料のみという条件での入学でしたので、その他の生活費等は全て自分で賄わなければなりません。宿坊・魚屋・スナックとかけもちでしたが、このアルバイトも貴重な社会経験でした。自身で言うのもおかしいのですが、私程、よく学び、よく働き、そしてよく遊んだ(飲んだ)学生も多くなかったと思います。その分、ひととの出会いや気づきも誰

よりも多かったのでしょう。高野山大学を通じて沢山の方と出会い支えられ今現在の私があることは間違いないのだと確信しております。心身共に大変充実した学生生活を送り、また、学業やお金には決して変えられない「人」という生涯の財産を高野山で手にすることが出来ました。

話はボクシングへ…卒業後は伝説のボクサー辰吉丈一郎さんに憧れプロボクサーを目指します。19年前のプロデビュー戦もこの大阪府立体育館第二競技場でした。現役時代はケガに悩まされ、わずかに3試合で引退しました。いざ辞めるとなると淋しい気持ちはありましたが、過酷な練習と減量から解放され、ホッと肩の荷がおりたのが正直なところでした。ボクシングとはおさらば…そんな私が再びリングへ上がるきっかけとなったのが後輩の小松則幸(元東洋太平洋チャンピオン)が世界タイトルマッチ再挑戦を目前に29才でこの世を去ったことです。同期入門でボクサーとしてだけでなく人間としても素晴らしい人格の持ち主、無念でなりません。小松が叶えられなかった世界チャンピオンへの夢、それならば、その意志、この俺が引き継いで代わりに必ずチャンピオンベルトを取ってやる。6年前、そう誓った日から、一切の妥協や甘えは無くし、必死の練習と節制で現役時代の階級まで戻しました。

小松のボクサー魂を胸に秘め11月8日の試合に挑みました。小松が東洋チャンピオンとなったのも、この大阪府立体育館。何かしら因縁めいたものを感じます。小松と共に戦い取ったチャンピオンベルト。天国でサンドバックをたたき小松へ届けます。



profile:
河島 正行(かわしま まさゆき)
(昭和47年生 奈良県出身)
高野山大学 社会学科 社会福祉学専攻
平成6年3月卒業
不動産会社 勤務

平成28年度 入学試験日程

1. 学部<入試日程>

試験種別	願書受付期間	試験日	合格発表	試験場
一般入学試験(前期)	平成28年1月7日(木)~1月27日(水) 消印有効	2月5日(金)	2月12日(金)	本学・東京・大阪
一般入学試験(後期)	平成28年2月15日(月)~3月2日(水) 消印有効 窓口受付は3月8日(土日除く)午後4時まで	3月9日(水)	3月11日(金)	本学
三年編入学試験(後期) / 社会人編入学試験(後期)	平成28年2月15日(月)~3月2日(水) 消印有効 窓口受付は3月8日(土日除く)午後4時まで	3月9日(水)	3月11日(金)	本学
別科入試二次募集 密教専修コース	平成28年2月15日(月)~3月2日(水) 消印有効 窓口受付は3月8日(土日除く)午後4時まで	3月9日(水)	3月11日(金)	本学
別科入試二次募集 スピリチュアルケアコース	平成28年2月1日(月)~2月19日(金)消印有効	2月28日(日)	3月4日(金)	大阪

※東京会場…アルカディア市ヶ谷・私学会館(千代田区九段北4-2-25)
大阪会場…大阪大学中之島センター(高野山大学 大阪サテライトキャンパス)
注)合格発表は本人宛郵送と本学にて掲示(10:00~15:00)

<入試科目/募集人員>

- 一般入学試験(前期) 国語総合または英語I・II(50分100点)、小論文(50分100点)……10名
- 一般入学試験(後期) 国語総合または英語I・II(50分100点)、小論文(50分100点)……若干名
- 編入学試験(後期) 小論文(50分100点)、面接……若干名
- 社会人編入学試験(後期) 小論文(50分100点)、面接……若干名
- 別科入学試験(第二次) 試問票、面接……30名(第一次・第二次合わせて)

2. 大学院<入試日程>

試験種別	願書受付期間	試験日	合格発表	試験場
修士課程入学試験(後期) 博士前期課程コース 社会人コース 僧侶コース 博士課程入学試験(後期) 博士後期課程	平成28年2月8日(月)~2月19日(金) 消印有効	2月27日(土)	3月4日(金)	本学のみ

※大阪会場…大阪大学中之島センター(高野山大学 大阪サテライトキャンパス)
注)合格発表は本人宛郵送と本学にて掲示(10:00~15:00)

<入試科目/募集人員>

- 修士課程 博士前期課程コース 入学試験(後期) 密教学専攻(密教学、英語、面接)……13名(前・後期合わせて)
仏教学専攻(仏教学、英語、面接)……8名(前・後期合わせて)
- 修士課程 社会人コース 入学試験(後期) 密教学専攻(密教学、面接)……若干名
仏教学専攻(仏教学、面接)……若干名
- 修士課程 僧侶コース 入学試験(後期) 密教学専攻(密教学、面接)……若干名
仏教学専攻(仏教学、面接)……若干名
- 博士後期課程 入学試験(後期) 密教学専攻(英語、専門科目、面接)……3名(前・後期合わせて)
仏教学専攻(英語、専門科目、面接)……3名(前・後期合わせて)

3. 大学院(修士課程密教学専攻 通信教育課程)<入試日程>

試験種別	願書受付期間	一次選考合格発表日(書類選考)	二次選考日(面接)	二次選考合格発表日
修士課程入学試験(後期) 正科生	平成28年1月6日(水)~1月25日(月) 消印有効	2月8日(月)	2月20日(土)	2月24日(水)
修士課程入学試験 科目等履修生	平成28年1月25日(月)~2月26日(金) 消印有効	選考結果通知日	3月7日(月)まで(随時)本人へ通知	

※二次選考は一次選考合格者を対象とします。

- <入試科目/募集人員> ○修士課程 正科生 入学試験(後期) (書類選考・面接)……20名(前・後期合わせて)
○修士課程 科目等履修生 入学試験 (書類選考)……100名

I will become a NISO Q&A NEW TYPE Religious Awakening



西 あずさ (僧名: 琺琺)
1991年10月24日生まれ 3年生
＜出身＞福岡県
＜出身高校＞福岡県立博多青松高等学校



今、お坊さんが来てる。高野山へ

- A7 Q7** **高野山大学で学び、どんなところが、成長しましたか？**
まだ未熟者なので、正直成長の実感はありません。今後、忍耐強く、心の広い人間に成長したいと思います。
- A6 Q6** **高野山で生活することや学んだこと、得たことは？**
何かと不便な事が多いですが、常にお大師様に見守られ、助けられ生活させて頂いていると実感しています。町の中にもお大師様の教えが根強く残り、今もお大師様と共に生かして頂いてると思います。
- A5 Q5** **どんな課外活動をされていますか？**
書道部に入っています。書道部に入るまでは、まともに筆を持ったことがなく、最初は戸惑う事が多かったですが、しかし、活動を続けていく中で、色々な書道の歴史を学ぶ事ができて、書く事の面白さを見つけることが出来ました。作品は大きい物が多いので毎回悩んで苦労も多いですが、出来た時の達成感がすごく心地良いです。
- A4 Q4** **高野山大学で学ぶ魅力はどこですか？**
お大師様のお蔭で、見守られながら学ばせて頂ける事が大きな魅力です。他の大学とは何かも違う、学ぶ事、経験する事全てが未知の世界なので、学ぶ面白さを感じています。
- A3 Q3** **興味を持っている授業と、理由を教えてください。(2科目)**
一つ目は真言密教特殊講義Aです。美術が好きで、仏教独特の仏画は筆だけで描くのが、やったことのない美術のジャンルなので、興味がすごく持てました。二つ目は条幅制作Aです。書道の授業といえば、半紙に書くというイメージが強いですが、この授業では、半切や二・八といった自分より大きな紙に書くので、新たな発見が出来て楽しいです。



真言密教特殊講義A:得意な仏画の授業



イタリア人に得意な英語で道案内



書道部の仲間と打ち合わせ



大学近くの「養花天」の気さくなマスター

- A10 Q10** **高野山大学をめざす受験生にメッセージをお願いします。**
他では味わえないこの環境で、お大師様の教えを学ばせて頂ける有難く勿体ないチャンスだと私は思います。一緒にお大師様の最大限の教えを学ばせて頂きましょう!!
- A9 Q9** **卒業後の目標や将来の夢を聞かせてください。**
卒業後は、すぐ僧侶としての道を歩むのではなく、一度社会経験をしてから僧侶として歩んでいきたいと考えています。人の心に誰よりも寄り添い、世の為人の為に尽くせる僧侶になれる様、精進努力させて頂きます。
- A8 Q8** **高野山大学で学んだことを、どう生かしたいと思われますか？**
密教は、信仰だけでなく、日常生活とも深い関係があると学んだので、それを実践できる尼僧になりたいです。
- A2 Q2** **高野山大学で興味を持ったことや、知識を深めたいと思ったのは、どんなことですか？**
書道です。高校で書道に出会い興味を持ち、本格的に授業を受けられる本学で更に知識を深めたいと思いました。
- A1 Q1** **高野山大学の印象は？また、入学して驚いたことなどあれば、教えてください。**
入学前はとても厳しい修行の場で、娯楽など無い場所だと思っていました。入学後は、当然厳しい修行もありますが、友達と和気あいあいと過ごせる場所だと分かり、とても楽しいです。



授業風景



旧制高野山大学設立（紫雲寮）時代～

高野山大学史#06

本学図書館課長 木下 浩良



1926年旧制高野山大学
紫雲寮と門柱事件

前号で本学の敷地が、上の段と称された飲食店や商店が立ち並んでいた場所で、昭和の初めにそれらが鶯谷へ移転した跡地にできたのが、現在の本学であると紹介した。その大学の敷地となった上の段に、最初に建設されたのが昭和4年(1929)5月に開館式を迎えた図書館で、その半年後の同年11月には旧校舎が完成したことも前号で紹介した。

本学当局の英断で旧制大学へ昇格して、さらには本学学生の学生運動で施設等の充実を果たしつつあった本学は、内外共にここに至って新生高野山大学として大きく羽ばたいたのであった。

ただ、その一方で如何ともし難い問題を抱えていた。それが、学寮の紫雲寮であった。昭和7年(1932)に現在の高野町役場の裏に建設された紫雲寮は、色町の入り口を示す「鶯谷入口」の門柱をくぐらなければ中に入ることができなかった。鶯谷へ移転した飲食店や商店は、昭和5年(1930)頃に現在の高野山幹部交番横の信号機付近に「鶯谷入口」と明記した門柱を紫雲寮が竣工する以前に建てていた。このことは、本学学生にとっては屈辱的なことで、東京で例えるならば、吉原の大門の内側に学寮があるようなものだった。紫雲寮の建設当時から本学学生は、鶯谷側・高野町役場・高野警察署・本山当局に門柱の排除の交渉を重ねたが、問題解決の糸口はつかめなかった。

そこで立ち上がったのが、本学学生であった。昭和12年(1937)6月20日深夜、ついにその時がやってきた。河野光顕寮監は学生を前に「どうしてもやるか」と発言。「どうしてもやります」と学生たちは返事。「信念を持ってやるなら止めません。今から学長のところへ行く」と言い放つ河野寮監。本学寮生50数名は、高野山小学校から借用した綱引き用ロープで鶯谷門柱を引き倒すという実力行使に出た。さらに、倒した門柱を破壊した学生たちは凱歌を挙げて、「黎明会」と大書した幟を押し立てて奥之院へ御廟参拝をして帰寮。

この事件は「門柱事件」と言われ、本学学生は一気に時の人となった。事件後、高野警察署は県刑事課と特高課へ報告、翌日学生の首謀者数名を取り調べのため拘留。残った学生は

高野警察署前に陣取って本学の学生歌・寮歌・惜春歌を夜通し歌い留置された仲間を励ました。その後、警察側は一旦、首謀者を釈放し、処分を大学当局へ委ねた。

大学当局が出した処分は、5日間の停学と10日間の謹慎で、停学中は毎日三時の例時・奥之院参拝と般若心経10巻の浄書を課し、謹慎中は奥之院への日参とした。和田性海学長は、涙を流してこの処分決定を言い渡したとされる。ところが、この処分が手ぬるいといきり立ったのが鶯谷側であった。鶯谷側が問題としたのが、門柱が電柱を兼ねていたことだった。事件の中心人物の4名の学生を電気事業違反で告発。これにより事態は暗礁に乗り上げてしまった。門柱の復活を不可とする大学側と、その復活を最小限の要求とする鶯谷側とは意見が対立してしました。

この膠着した中で問題解決に奔走したのが高野町長に就任したばかりの、遍照光院の藤本真光本学教授であった。事件発生から2ヶ月半後の9月4日、藤本町長は高野警察署に本山と鶯谷の代表を参集させることに成功。即日、門柱の撤廃と鶯谷入口に電灯の増設と、紫雲寮の正門を鶯谷に至る町道の分岐点まで進出させて寮の存在を明確にすることが決まった。これにより、鶯谷からの学生への告発も取り下げられた。

解決不可能と皆が諦めていた難問題に本学学生が取り組み、解決へと導いた門柱事件は本学学生の評判を逆に上げることとなった。旧制大学時代の古きよき時代の本学学生スピリッツを吐露した事件であった。これまでも紹介したように、本学学生による同盟休校は度々行われたが、その行為の心底にあるのは、本学への母校愛であったことを特に明記したい。

この当時の本学学生の活躍には目を見張るものがある。関西地区白線帽大会(予科祭)に本学学生は、白衣の上に紋付・袴の出で立ちで、高野山大学と大書した幟を持ち、寮歌・惜春歌を歌い、大阪の心齋橋筋などを行進すると、他大学の白線帽は「お山から出てきた」と言って道を開けたものだった。「東の東大、西の高大」と言って自負していた頃の、本学学生のひとコマである。

就任のごあいさつ

密教文化研究所長 奥山 直司

本年7月1日付で密教文化研究所長に就任しました。それから四ヶ月が経過し、ようやくこの研究所がどのようにして動いているのかが分かってきました。本研究所は長い歴史と伝統を持つ密教研究のセンターです。組織は小さいながら、実にさまざまな事業を手がけており、そこにたくさんの人々が関わっています。例えば、高野山大学フジキン小川修平記念講座の講演会と関連研究会の運営は本研究所の仕事になっています。

私は、研究所の命は、活発な研究会をどれだけたくさん抱えているかに掛かっていると考えています。今、本研究所には、フジキン関係の研究会の他に、四つの研究会があります。それぞれが順調に成果を挙げてゆけるよう環境を整えてゆくことは研究所の大きな使命です。

密教研究をベースに国際交流を進めることも喫緊の課題です。現在、本研究所はチベット僧二名、中国人研究者一名を受託研究員として受け入れています。前者はゲシェー・ハランプの学位を取得済みで、高野山への留学目的は日本語の学習と日本仏教の研究です。彼らがそれぞれに所期の目的を達成できるようにできるだけのことをしてゆきたいと考えています。

今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



副学長(学生サポート担当) 佐藤 隆彦

本年高野山は、開創1200年を迎え多数の参拝者で賑わいました。この記念すべき年に副学長に就任したことを大変光栄に思っています。

弘法大師が高野山を開創された理由に、高い山の上の平地が修行に適しているということがあります。高野山の自然は年間を通じて四季折々にその美しさがあり、一日を限って見ても早朝、昼、夕方とその姿を変えて眺める人の心を飽きさせずことはありません。さらに、高野山は、山の正倉院とも呼ばれ国宝、重文をはじめ様々な文化財を所蔵しています。一生かかっても目を通すことが出来ないだけの聖教類があります。このように、高野山は修行したり研究したりするには理想的な環境なのです。

とはいうものの素晴らしい環境を持つ高野山ですが、一般の学生さんが学生生活を送るための環境としては、必ずしも良いと言えない部分もあります。一人でも多くの学ぶ気にあふれる学生さんができるだけ快適な学習環境の中で勉強できるよう力の限りサポートしていきたいと思っています。今後とも様々なお力添えをお願い申し上げます。



密教学科主任 南 昌宏

平成二十七年度途中の人事異動により、密教学科主任に就任いたしました。今回の事態は、私にとって、まさに青天の霹靂でありました。歴代の主任について確認したわけではありませんが、在家の者が密教学科主任を務めるのは初めてではないかと思えます。元々は人文学科中国哲学専攻に所属しておりましたが、組織の変更に伴って、日本文化学科から密教学科へと配置転換されて来ました。そのようなわけで、密教学科内の事情についても見識が狭く、色々な方の協力無くしては務まらないものと考えております。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

在家者が主任にならざるを得ないという背景には、人材不足・後継者不足があります。僧侶でありかつ密教の研究者であるという人間が、大学内にも少なくなって来たということであり、これは由もしき事態です。大学だけの問題ではなく、ひいては真言宗の問題ともなります。後継者育成を謳う宗門大学として、高野山大学はこの問題に真剣に取り組まなければならないと考えています。密教とは何か、弘法大師空海とは何か、真言宗とは何か。研究を通じて、これらを社会に発信することが、密教学科の使命であると考えています。



大学院委員長 乾 仁志

本学に大学院が設置されたのは戦後のことです。学校教育法が公布・施行された昭和24年(1949)に本学も新制大学の認可を受けました。大学院の設置は、戦前の私学では困難でしたが、戦後は国の方針の下にさまざまな規制が緩和され、本学でも検討課題に上がっていました。そして、併設の旧制大学が終了する昭和27年に大学院修士課程(密教学専攻・仏教学専攻)が設置され、昭和43年には博士課程が増設されたのです。

大学院の開設は、戦後の教育制度が教育の機会均等化や学制の単純化をもたらす一方で、修業年限の短縮化によって高等教育における専門教育のレベル低下が予想されたことから、大学卒業後の研究者養成機関として必要なことでした。なお本学では、平成16年度から生涯学習の一環として大学院に通信教育課程(修士課程密教学専攻)も設けています。

本学大学院は60年以上の長い歴史をもっています。しかし大学の大衆化や少子高齢化傾向の拡大など、教育をめぐる環境は大きく変貌しました。

そのため、大学院の役割・質・組織の在り方などの再検討が迫られており、本学においても直近の問題として取り組んでいきたいと存じます。



第3回 弘法大師の足跡を訪ねよう

平成27年10月17日、18日、弘法大師(空海)の足跡を訪ねて、大師が『三教指帰』に著された青年期の修行地である石鎚山(成就社)を主に、愛媛県の四国八十八ヶ所関係諸寺院を参拝させていただきました。

初回で訪れた誕生地である香川県の善通寺他諸寺院、昨年の第2回目で訪れた修行地である徳島県の太龍寺他諸寺院、高知県の室戸岬他諸寺院に引き続き、今年は愛媛県を訪れ、3年をもって四国全県の大師生涯の主な足跡地を訪ねて参りました。

参詣寺院におかれましては、高野山大学一行を歓迎いただき、深謝申し上げます。

栄福寺では、今年10月に映画化された『ボクは坊さん。』の著者、本学卒業生の白川密成住職より、本堂にてご法話いただきました。重ねてお礼申し上げます。

同様に、本学卒業生が社長を務めておられる、和歌山県の「日の丸観光バス(株)」のドライバー様の安全運転で、今年も無事に参拝成就できました事を心より深く感謝致します。

○参拝地(愛媛県)

- 十夜ヶ橋(弘法大師御野宿所)
- 岩屋寺(四国八十八ヶ所 第四十五番札所)
- 石手寺(四国八十八ヶ所 第五十一番札所)



栄福寺(四国八十八ヶ所 第五十七番札所)
石鎚山 成就社

栄福寺



十夜ヶ橋



石鎚山・奥前神社

以下は、参加学生の感想文(抜粋)です。

大学院 修士2回生/川梁 龍哉

取り立てて印象に残っているのは、十夜ヶ橋である。橋にまつわる伝承と雲照律師という普段自分が研究している近代に近い部分が極めて近い所に並立している様子は、ある意味で不思議であるとともに、歴史と信仰の流れを実感することのできる場所であった。同じようなことを並び立てるならば、栄福寺の白川密成住職もまた、ゼミの先輩であるとともに雲照律師の弟子であり、真言宗管長にもなった土宜法龍について研究していたということを知り、縁と云うのは不思議なもので確かに存在するのだなと実感させられることとなった。

密教学科 4回生/鈴木 透馬

今回の「弘法大師の足跡を訪ねよう」で印象に残っている箇所は2ヶ所あります。一つは1日目の十夜ヶ橋です。実際に目で見て、ここで大師様は体を休まれたのだなと感動しました。もう一つは2日目の栄福寺です。ご住職であられる白川先生の「人は何か役目を与えられて生まれてくるものではないか」というお話を聞いて、自分もその役目を探しながら、これからお坊さんとして頑張っていかなければならないと思いました。この旅行に参加して思ったことは、高野山にいただけではなく、実際にお大師様の足跡を目で見て、体で感じてみなければ分からないことがとても多いものだなと思いました。

密教学科 4回生/佐竹 貴裕

私は、今回の「弘法大師の足跡を訪ねよう」で地元愛媛県の弘法大師空海の足跡をめぐりましたが、十夜ヶ橋は初めて行きました。気づかなければ普通の橋なのですが、その下にはお大師様の寝ている像と、歌碑がまつってありました。そこで皆で般若心経をお唱えしたのですが、頭の佐藤先生が錫杖を使っていて、私は錫杖を使って般若心経や御真言を唱えたことがなかったのでとても新鮮でした。石鎚山に行く途中のバスの中で修験の衣体についての解説が、面白くて分かりやすかったです。また、先生がインドに行った時の写真での説明も面白かったです。お釈迦さんの時代のものがまだ残っているのが驚きでした。石鎚山での山道は歩くのが大変でしたが、今回の現地学習会で出会った方や加行を一緒にした方達と話ができて楽しかったです。自然の中を歩いていると、佐藤先生が一番最初におっしゃっていた「自然も仏の法身」というのが、少しだけわかれたような気がします。この「弘法大師の足跡を訪ねよう」で、仏教にいつもと違う触れ方ができて、参加させていただいて良かったです。

密教学科 4回生/丸山 泰雅

今年は、1泊2日で愛媛県に行きました。まず最初に行つて印象に残っているのが、十夜ヶ橋です。ここはお大師様が四国を巡られている時に、この橋の下に泊まられて、一夜が長く感じ、この十夜ヶ橋という名前がつけられました。ここがなぜ印象に残っているかという、昔と今では橋の形は違っていると思うのですが、今でも橋が残っていて、その橋の下でお参りができたからです。四国の色々な所に、この十夜ヶ橋のような所が今でも残っているのは、すごいことだと思います。もう一つ、僕が印象に残っていることは、石鎚山に上り、成就社にお参りしたこと。石鎚山では、途中までロープウェイで上り、成就社に歩いて上りました。山道を登るのは大変でしたが、とても貴重な体験ができました。僕はこの「弘法大師の足跡を訪ねよう」に3年間参加して、四国全県に行くことができ、お参りすることができました。それぞれの所で体験したことは貴重なことばかりで大学生生活の思い出になっています。参加できて良かったです。

密教学科 3回生/佐竹 弘全

私は今年の夏休みに自動車免許の教習で一度十夜ヶ橋に来ていた。その時は「何だろうここは」ぐらいで終わって駐車場でUターンして帰った。今回、「弘法大師の足跡を訪ねよう」に参加して、知り、縁を感じ大変有り難いと思った。また私の探究心の無さに恥ずかしいとも思った。私は橋の下に弘法大師がまつられているとは全く気が付かなかった。橋の下は横になっている大師像で、大師堂のお大師様は立像だった。私はお大師様の横になっている像も立像も見ることがなかった。しかし、高野山に帰ってから調べると、ある方から「立像は修行大師」と聞いた。座像や立像の違いを今後、調べていきたいと思う。

大学院 通信生/岡庭 和子

昨年この「弘法大師の足跡を訪ねよう」に参加させて頂き、単なる団体旅行ではなく、大いに意義のあるものだったので、引き続き参加した。今年も、期待を裏切らず、私にとって実りあるものとなった。快晴の中、昨年と同じ運転が上手な女性の運転手さんと、安心してバスに乗車した。また昨年、一緒に参加された方もいたので和やかな雰囲気の中だった。十夜ヶ橋に着くまで、担当職員の方が作成した膨大な資料を基に、見学箇所や仏教思想から見た四国遍路について、勉強していった。その中で、特に心に残っているのは、成立の要因として、平安期の山岳や海辺の行場で行った辺地修行の者たち、空海も若き日々に修行した虚空蔵求聞持法、真言を唱え、大宇宙や自然と一体化し優れた智力を得ようとした修行者たちによって次第に形成された。十夜ヶ橋は、お大師さまが

宿が見つからず、この橋の下で空腹のまま野宿したところであり、遍路が橋を渡る時には杖を突かないという風習はここで生まれた。「ゆきなやむ浮世の人を渡さずば一夜も十夜の橋と思ほゆ」との歌から、この橋の名がつけられた。橋の下で般若心経を唱え、考えにふけた。お大師さまが、寒くないように掛けられた布団や衣装が色彩豊かであり、温かい心を感じた。岩屋寺は、息が切れるほど登った山の上であり、標高700m、奇峰が天を突き、巨岩の中腹に埋め込まれるように堂宇が竹、山岳霊場であった。二日目は、まず石手寺に向かった。この寺は、有名な右衛門三郎の民話があり、生まれ変わったとき右手に持っていた小石が展示されていた。栄福寺のご住職は、『ボクは坊さん。』の主人公である。ご夫婦とも、高野山大学の卒業生であり、お話しも伺い、和気あいあいとした時間が流れた。帰りのバスの中では、声明をお聞きするというありがたい幸運に感謝した。好天に恵まれ、佐藤先生ほか職員の皆様のすばらしい心配りに感謝し、多方面の様々な方の協力に感謝申し上げます。

大学院 通信生/河田 綾子

初めて参加させていただきました。多くの貴重な内容の文献をいただき驚きました。修験者の装束のお披露目は、大宇宙・大自然のなかでの命がけで仏を崇める人間の歴史の深さと神仏を求める装束美の知恵との調和を感じました。インドのお写真は深い歴史の中にほほえみを感じ、生きる濃密なる神仏への崇拜は時代と共に史跡文化への思考性の変容をとげる現代の人々の生活の姿が印象深い。史跡探訪の記念のお写真は興奮を誘った。心を磨く濃密な歴史探訪学習のすばらしいツアーに参加させていただきました。そこにはお大師さまの生まれ育った教育環境の背景を抜きには考えられませんでした。このツアーで史跡を訪ね未知への発見の喜びと人との出会いのころあたかなお言葉があらたな英知を賜る旅となりました。高齢の私にとっては一歩一歩が貴重な命をはぐむ探訪となりました。重い納経帳をお運びくださり感謝のお言葉に支えていただきました。そして空高く聳える梯子を攀じ登り自然にお不動様に合掌できたうれしさは最後の足が土に触れるその一瞬の呼吸から真言行者空海の密教の行体験の喜びの感謝に胸が熱くなりました。岩屋寺は二度目の行体験でしたが、有難い周りのまなざしに見守られての喜びと学びに生きてよかったと思想家空海の心を紐解く探究の旅に感謝申し上げます。

大学院 通信生/菖蒲 剛智

今年も昨年に引き続き、「弘法大師の足跡を訪ねよう」に参加させていただきました。通信生なので、普段は書物を通しての学びが主であり、なかなか知識が血肉にならないもどかさを感じておりました。しかし今回このような機会を与えていただき、学んだことが現地で再確認できることで、知識が身体になじんでいく心地よさと喜びを感じる事ができました。家に戻り、現地で取ったメモや写真を見て「山に入る者を拒むように高く、海と空はどこまでも広くて青いのだな」と圧倒されるような印象を持ったのを思い出しています。今回訪れた「十夜ヶ橋」、「岩屋寺」、「石手寺」、「栄福寺」、「成就社」、それぞれで感じた人の営みの連なりと信仰の力、雰囲気・空気感。これらが、今後の学びの中で新たな気づきに繋がっていくヒントになれば良いなと思っています。

大学院 通信生/原 正憲

十夜ヶ橋・永徳寺。「ゆきなやむ浮世の人を渡さずば一夜も十夜の橋と思ほゆ」。大師が野宿をされた夜はどんな夜だったのだろうか。衆生済度の思いに寝苦しい夜を過ごされた大師に月影は指しているのだろうか。花は匂っていたのだろうか。生きとし生けるものの感謝の気持ちを示すように大師の野宿像には布団がかけられています。十夜ヶ橋の季節はめぐっていきますが大師の心は人々の心に温かい灯をともしながらいつま

でも尽きることはないでしょう。橋の下、大師像に向かい、佐藤隆彦副学長のご発声の下に般若心経をみんなと一緒に素直な気持ちで唱えたことは私の一生の思い出となりました。この旅は岩屋寺、石手寺、栄福寺、石鎚山成就社と続くのですが、いずれも内容の詰まったすばらしい体験になりました。お世話いただいた事務局や声明を聞かせていただいた学生の皆さんに感謝を申し上げ、感想といたします。

大学院 通信生/松崎 緑

事前に立派な資料が届いた上、当日も各所の丁寧な説明を頂きありがとうございました。昨年がとても楽しかったので、今年も参加させて頂きました。佐藤先生が一緒下さるだけで感動でしたし、愛媛の各寺は共に素敵でした。その中で印象深かったのは、石鎚山の成就社です。急斜面のロープウェイから見下ろす錦秋の風景、目の前の山道を多くの修験者、遍路者、もしかしたらお大師様や右衛門三郎も歩いたかも知れないと思うと、日常を忘れました。成就社の清々しい空気と土産物屋にあった法螺貝に修験道場らしさを感じました。私たちの歩調を終始気遣い、学部生達が共に歩いて下さったので辺地へ行くことができました。さらに疲れ果てた帰りのバス内で、声明を唱えて頂きました。こんなに身近に拝聴できる機会はめったにないので、大変ありがたかったです。お弁当や食事がすべてきれいでおいしく、秋を満喫させていただきました。スタッフの皆様のおかげです、大変お世話になりました。

大学院 通信生/杉山 幸子

「弘法大師の足跡を訪ねよう」の一日目は絶好の日和であった。「ゆきなやむ浮世の人を渡さずば一夜も十夜の橋と思ほゆ」との歌の十夜ヶ橋から始まり、次は、岩屋寺である。岩屋寺は典型的な山岳霊場であったが、何故か海岸山という山号である。二日目はいよいよこの旅で一番楽しみにしていた空海が修行した石鎚山である。絶好の日和である。石手寺をお参りし、次の栄福寺では、住職一家からおもてなしを受け、弘法大師のことば、「人の相を知ること、必ずしも対面して久しく語るに在らず。意通ずれば則ち傾蓋の遇なり。」をいただきバスに乗る。期待に胸を弾ませて、石鎚山成就社に向う。途中の展望所、瀬戸内海を遠望し、古来の姿を思いながら奥前神社に。奥前神社の軒先にある彫り物に温かみを感じる。ここから、成就社まで曲がりくねった参道を登っていく。木々の緑がこれほど美しく濃淡を出していること。木漏れ日がこんなに暖かく、美しい景色を創ることを感じながら、この時間が何ものにも替えがたく思えるひと時であった。いつかこの弥山の頂上社を近くに望んでみたいと考えている。石鎚山は西日本一の高峰であり、古来、修験道の霊場であっただけに、深山幽谷の趣がある。この想いを石鎚山に残してきた。

大学院 通信生(修了)/川名 清子

「弘法大師の足跡を訪ねよう」に参加させていただきました。この度、訪ねた愛媛の諸寺院は、多く山々に囲まれ静かな境内には、時々お遍路さんの姿が見られました。ひとりひとりが、そこでの時間を大切に過ごされているようでした。長い坂道を上ると、岩山に抱かれたような岩屋寺にたどりつきました。背後の岸壁に圧倒されながら、風雪のあとを岩肌に感じました。人々はいつも変わらぬ足取りで坂道を上り、参拝をし、木立の中を下っていくに違いありません。寺院がそこにあるというありがたさを感じました。石鎚山ロープウェイからの森では、木々が赤くなり始めていました。そして、遥かに石鎚山を拜することができました。愛媛県の諸寺院をみなやさしく、あたたかく、そしてありがたく思いました。参拝の機会をいただきまして、ありがとうございました。よい旅ができました。

以上



学園祭(曼荼羅祭)

今年度は、高野山開創千二百年という記念すべき年に、学友会委員長を務めました。

昨年から学友会委員に入っており、少しは慣れているかなと思って安心していました。しかし、今年の高野山は予想以上に盛り上がり、多くの僧侶、参拝客等、たくさんの方々が足を運んで来て下さいました。

今年も様々なイベントに参加しました。

春は、青葉まつりから始まり、学友会委員もねぶたを引きました。



夏のろうそく祭りでは、ギネス記録に挑みました。地元の青年団の人たちに紛れて、参加させていただいたギネスチャレンジでは、雨の中、一人一人がろうそくの火をつけるのに必死になりました。

秋は、明神さんのお神輿を担いだ秋まつりでした。

翌日は声をからす位、大声を出しました。

最後は高野山大学の伝統ある、曼荼羅祭で締めくくりました。

今年の曼荼羅祭は、学生一人一人が楽しんでもらう、そして曼荼羅祭をさせていただけるという感謝をこめて開催しました。その結果、多くの方たちの協力があったが無事に終わることができました。本当にありがとうございました。歴代の先輩方が続けてきた歴史ある曼荼羅祭をまたこれからも続けていけるように、後輩にバトンをつなげていきます。今年の曼荼羅祭のテーマ「歴史と感謝」はこのような意味で名付けました。最後はやりきった気持ち



でいっぱいでした。曼荼羅祭も無事に終わって、よき一年を過ごせたのではないかと思います。

高野山大学学友会は、今後も学生自らが創る楽しみを学び、周りの活動への参加、そしてすべての学生が主体となっていける学友会を目指して活動していきます。

(高野山大学 学友会
総務本部委員長 2年生
向井 崇真 記)



オープンキャンパス

オープンキャンパスを7月19日、9月23日、11月1日の3回実施しました。7月19日は高野山大学卒業生の白川密成氏の「ボクは坊さん。」の全国ロードショー(10月24日ロードショー)に先駆けて試写会を実施しました。原作者の白川密成氏、監督の真壁幸紀氏にもお越しいただき、高野山大学で学ぶ意味や「坊さん」の役割についてお話いただきました。9月23日は、中之島の本学サテライトキャンパスでミニオープンキャンパスを実施し、午後からは別科スピリチュアルケアコースの公開講座、「生老

病死のスピリチュアルケア」をテーマにした講座を同時開催しました。11月1日は学園祭(曼荼羅祭)と同時開催しました。体験授業、体験ツアー、進学相談、入試対策講座、就職体験談、無料ランチなどを体験していただき、五條駅・和歌山駅から送迎バスも運行しました。



昨年、開創1200年を迎えた高野山。本年、高野山大学は130周年を迎えます。遠方からのご参加や2度、3度のご参加の方など、多くの方にご参加いただくことが出来ました。この伝統を引き継ぎつつ、本年はオープンキャンパスで皆さまに高野山大学の新たな魅力をお伝えしていきたいと思ひます。また、「毎日オープンキャンパス(学校見学)」も随時受け付けています。授業の見学や学生生活や入試についてなどいつでもご相談ください。

皆さまのご参加をお待ちしております。



大学院で臨床宗教教養講座を開講!



高野山大学大学院では、平成27年9月1日から平成28年8月31日の予定で東京品川の高野山東京別院と東京六本木のハリウッド大学院大学を会場にして臨床宗教教師とスピリチュアルケアワーカーを養成する目的で開設しました。

受講者は、僧侶、医療関係者、福祉関係者など16名です。現場で働いている方も多数います。

講義の内容は、密教学仏教学宗教学等の基礎学問、臨床心理学社会福祉学寺院経営学等の実践学問、被災地での臨地実習、医療施設や病院での臨床実習等多岐にわたっています。受講者の方々も熱心に受講しています。人は生きるうえで多くの困難に遭遇します。多くの人は自助努力で解決しますが解決できない人も数多くいます。そういった方々の拠りどころとなるのが臨床宗教教師です。人の人生に関わる大切な役割だと思えます。



第二期大学院臨床宗教教養講座募集開始!

こころ・からだ・いのち・たましいが遭遇する
現代的課題としっかり向き合えるように、
最先端の理論に基づいた
実践的な知恵とスキルを身につけます

募集人員 **40名**

履修期間 **1年(平成28年8月30日~翌年7月上旬修了)**
在籍期限は**4年間**まで。

出願資格 **本学大学院通信教育課程正科生在籍者、
本学大学院修士課程修了者(通信生含む)
他大学大学院修了者、大学卒業生**

本コースの学びの特徴

- ①「布教を目的としない公共空間での心のケア」を学びます。
- ②宗教的な視点とともに科学的な視点からも心のケアを学びます。
- ③人生の中のあらゆるステージの、あらゆる場面で必要とされる心のケアのスキルを取得します。
- ④実践経験豊富な第一線で活躍する教員により、最先端で実践的な講義を提供します。
- ⑤本講座において必要な領域を履修することで、認定資格「臨床宗教教師」「スピリチュアルケア師」が取得できます。(申請中)
- ⑥原則として週3日の集中講義、集中実習で講義を進めます。

募集の流れ・スケジュール

出願期間	書類選考	面接日	面接選考
平成28年5月16日(月)~ 平成28年6月17日(金)	平成28年6月6日(月)~ 6月23日(木)	平成28年6月18日(土) ・7月1日(金)	平成28年7月11日(月)
手続期間	平成28年8月1日(月) ~8月17日(水)	開講式 オリエンテーション	平成28年8月27日(土)予定

出願書類・受験料

- ①願書
- ②履歴書
- ③志望動機書
- ④卒業証明書(学位取得)
- ⑤写真(貼付)
- ⑥健康診断証明書

受験料
無料

お問い合わせ

高野山大学大学院 教養講座受講受付係
TEL:0736-56-5027

臨床宗教教養講座・公開講座

日時 **平成28年4月23日(土)開催予定**
場所 **六本木ヒルズハリウッドプラザ**

※詳細は決定次第HPで案内します。

高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会を開催しました!!

8月29日(土)、大阪国際会議場において、高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会、「宇宙の摂理への想い 科学と宗教の視点から」が開催されました。当日は400名の来場者を迎え、盛況のうちに終了しました。

5回目となる今年は、スタンフォード大学教授の西義雄先生、高野山大学名誉教授の村上保壽先生、高野山真言宗前管長・高野山大学名誉教授の松長有慶先生の3先生に、ご講演をお願いしました。

西義雄先生は、「半導体-原子の世界のものづくり」と題し、日米の教育環境の違いや、長年にわたる半導体の集積回路の研究を通して考察された、「ナノ」の世界での出来事と私たちのマクロな世界との関連についてご講演くださいました。

村上保壽先生は、「空海の想い-自然から意味の世界へ」と題し、本講演会の大きなテーマである「宇宙の摂理への想い」とは何かについて検証、「摂理」という言葉の意味するところや、仏教・密教・空海の想いと科学の想いの違いについて紐解いてくださいました。

松長有慶先生は、「見えるものと見えないもの」と題し、見えるものを対象とする科学、見えない領域を包含する宗教の違いに触れつつも、科学が見えないものを対象とする段階にきている現実や、湯川秀樹らの科学者が、空海の思想に親しんでいたエピソードを交え、仏教・密教の可能性について語ってくださいました。

今回は2月20日(土)(於:グランフロント大阪)の開催を予定しています。これからも、科学と宗教、それぞれの視点から、よりよく生きるためのヒントを提供して参ります。どうぞご期待ください。



スタンフォード大学教授 西義雄先生



高野山大学名誉教授 村上保壽先生



高野山真言宗前管長
高野山大学名誉教授 松長有慶先生

「いのちと遺伝子」成果報告会を実施しました!!

高野山大学密教文化研究所では、村上和雄・筑波大学名誉教授(国際科学振興財団バイオ研究所長)を特別顧問に招聘し、平成25年度から、「祈り」や「瞑想」が心身に及ぼす影響をテーマに、科学者らと共に、「いのちと遺伝子」研究を開始しました。

その間、横浜・弘明寺にて計5回の実証実験を行い、護摩行の前後で、僧侶や一般人の遺伝子に起こる変化について検証を重ねました。

今般、これまでの実験結果がまとまり、12月6日(日)、大阪ガーデンパレスにおいて成果報告会を開催しました。

鮎澤聡・筑波技術大学准教授からは、祈りを実践する僧侶に特有な「僧侶型遺伝子」が確認されたこと、更に、一般人にも護摩行の場に身を置くだけで変動する、「祈りの場遺伝子」が発見されたことが報告されました。

「祈り」が心身に与える影響について科学的に検証したのは、日本においては初の成果で、この研究が、「見えないこと」への信頼と宗教界の自信回復にもつながるとの話し、参加した科学者、宗教学者、僧侶らから期待の声が上がりました。

研究所では、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱の一つとしています。この度の成果を受けて、これからも宗教と科学の対話を継続して参ります。今後の取り組みにご注目ください。

高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会

日時 **平成28年2月20日(土) 13時00分~15時30分(開場:12時00分~)**

場所 **ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター
グランフロント大阪 北館 B2F**

申込開始は平成28年1月中旬頃予定。高野山大学HPよりお申込みください。

- 聴講無料
- 事前予約
- 先着順

お問い合わせ:高野山大学フジキン小川修平記念講座事務局(高野山大学密教文化研究所内) Tel.0736-56-2390

平成28年度同窓会総会のご案内

日時

平成28年5月27日(金)

『総会』午前11時30分～

『懇親会』午後1時～

(会費7千円)

場所

ザ・リッツ・カールトン大阪

大阪市北区梅田2-5-25

Tel.06-6343-7000

(JR大阪駅より徒歩約10分)

来る平成28年、高野山大学は創立130周年の記念すべき年を迎えます。奮って総会にご参集いただき、闊達な議論を頂戴できればありがたく存じます。また懇親会では、特別ゲストをお招きしてのスペシャル企画をご用意しておりますので、どうぞご期待くださいませ。詳しい内容につきましては、追ってHPでお知らせします。同窓会皆様のご参加をお願い申し上げます。

尚、出席者の人数を確認致したく存じますので、同封の葉書にて**ご出席の場合のみ4月28日(木)まで**にご返信くださいますようお願い申し上げます。

一お問い合わせ一 高野山大学同窓会 Tel.0736-56-2921 (内線112)
大学HP <http://www.koyasan-u.ac.jp>

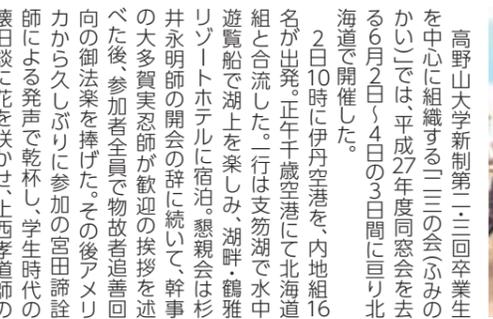


三八会

高野山開創1200年を記念して、同大学を昭和38年卒業「三八会(みつばちかい)」を平成27年5月19日(水)～20日(水)に宮津・天橋立で開催しました。

卒業当時の世相は、東京オリンピック開催を翌年に控え、新幹線開通、池田内閣の所得倍増政策、歌は「高校三年生」に「こんには赤ちゃん」正に世は好景気、良き時代でありました。ちなみにこの年の日本の平均寿命は男が61.2才、女72.3才。あれから50年、昔ながらのご先祖様に！今年からいよいよ後期高齢者、変われば変わるものです。

既に物故者が12名、体調不良で参加できない級友も多くなりました。元気で参加できた事に感謝し、近況報告等会話も盛り上がり、二次会も盛況、来年の再会を念いで開催、金森幹事長を選出して散会致しました。



三三の会

高野山大学新制第二三回卒業生を中心に組織する「三三の会(ふみのかい)」では、平成27年度同窓会を去る6月2日～4日の3日間に亘り北海道で開催した。

2日10時に伊丹空港を、内地組16名が出発。正午千歳空港にて北海道組と合流した。一行は支笏湖で水中遊覧船で湖上を楽しみ、湖畔・鶴雅リゾートホテルに宿泊。懇親会は杉井永明師の開会の辞に続いて、幹事の大多賀美忍師が歓迎の挨拶を述べた後、参加者全員で物故者追善回向の御法楽を捧げた。その後アメリカから久しぶりに参加の宮田諦詮師による発声で乾杯し、学生時代の懐旧談に花を咲かせ、上西孝道師の

四三の会

高野山大学昭和43年入学生で組織する同窓「四三の会(よごんかい)」では平成27年同窓会を、去る6月25日午後6時から大阪市北区曾根崎新地食道園において開催し、25名が参加した。

当日は、久しぶりに顔を合わせた同窓生らが近況報告や思い出話、無魔成満した開創大法会の話に会話弾み、学生時代に戻った時を過ごした。

出席者(順不同敬称略)
荒木本恵、安藤照雄、大田光俊、岡寛善、岡崎正信、岡部親栄、小川良明、笠井法英、金子弘信、川村光雅、佐伯英雄、仙波諦仁、瀧祥三、武内孝善、竹内崇雄、玉田陽、對馬康全、中村紀志夫、

音頭で校歌・追善歌を斉唱した。翌3日は昭和和山・有珠山を観光後、サニット会場になったウインザーホテル洞爺で昼食、小樽観光の後、札幌ランドホテルに宿泊した。

4日は羊ヶ丘展望台、札幌市内観光を行い、昼食時、ハワイより参加の川西美仁師の音頭で「三三の会」の益々の発展を祈念し乾杯、平尾隆信師より当番幹事への謝辞がなされ、来春神戸での再会を約して、盛会裡に北海道を後にした。

参加者(順不同敬称略)
泉龍雄、平尾隆信、教海俊應、長原敬峰(以上夫人同伴)、山本宣昭、上西孝道、杉井永明、宮田諦詮、川西美仁、今村寛玄、三星光、大多賀美忍、松尾法幸、長原美恵、薩田祥子、長谷川紀代子 (長原敬峰 記)

【夏季集団加行】



平成二十七年八月四日から九月二十三日まで、本学大菩提院(加行道場)において、高野山総持院上綱・宮田永明大阿に伝授阿闍梨をお勤めいただき、夏季集団加行を行いました。

加行者は約五十日間、白雲寮(僧房)に住して、修行に専心しました。

今季の加行者は、前期五名(大学院通信生一名、密教学科三回生二名、別科一回生一名)、密教学科三回生二名、別科一回生一名、一般名、後期八名(大学院一回生一名、密教学科四回生二名、同三回生二名、別科一回生一名、一般一名)の計十三名でした。

また、尼僧は八月五日から九月二十四日まで、高野山寶壽院(尼僧道場)において、寶壽院門主・葛西光義大阿に伝授阿闍梨をお勤めいただき、同期間、同院に住して、行いました。

前期一名(大学院通信生)、後期一名(大学院二回生)の計二名でした。

【平成二十七年「高野山大学教職員並びに先輩物故者追悼法会」】

十二月二十日、松下講堂黎明館において、平成二十七年「高野山大学教職員並びに先輩物故者追悼法会」を、理趣三昧法会にて厳修しました。本法会は、本学に関係された全ての教職員並びに先輩物故者の尊霊の追善仏果菩提を祈り、供養する法要です。例年、本学の開校記念日(五月四日)の行事として、今年度は十二月二十日に執行しました。

導師、藤田光寛学長のもと、職衆として、本学大菩提院にて集団加行を修した学生、並びに教職員十六口が出陣しました。

壇上の大師御影前に、御位牌、過去帳、角塔婆をお祀りし、修法、読経しました。読経中、参列した教職員、学生全員が焼香を行いました。角塔婆は書道部の学生が書き、法会后、教職員の手で奥之院の本学墓所に建立しました。



【伝法灌頂】

平成二十七年十一月二日、高野山寶壽院において、寶壽院門主・葛西光義伝授大阿闍梨のもと、伝法灌頂を開催しました。

本学大菩提院(加行道場)で四度加行を成満した学生等が入壇し、阿闍梨位を得ました。

今年度の入壇者は、十五名(大学院一回生一名、密教学科四回生三名、同三回生三名、別科一回生二名、般(卒業生等)七名(内、尼僧一名)でした。

【学位記授与式】

平成二十七年九月十二日午前十一時より、第一会議室に於いて、学位記授与式が挙行され、本学教職員の列席のもと、通信教育課程の四名が修了しました。

授与式は、藤田光寛学長より学位記が一人ひとり手渡され、学長式辞の後、卒業生答辞、校歌斉唱等が厳かに執り行われました。



日録(7月～12月)

- 7月
 - 10金 9月卒論・修論提出期限(正午)
 - 15水 教授会
 - 19日 オープンキャンパス
 - 20月 ※海の日(通常授業日)
 - 22水 通信夏季研究発表会
 - 23木 夏季通信スクーリング(8/2)
 - 25土 臨床宗教養講座開講記念講演会
- 8月
 - 3月 夏期休業開始
 - 13木 集中講義(8/5)
 - 14金 孟蘭盆会
 - 15土 孟蘭盆会
 - 25火 前期成績通知
 - 27金 高野山学園理事会評議員会
 - 28土 再試験願提出日
 - 29月 臨床宗教養講座開講式
 - 31月 フジキン小川修平記念講座
 - 再試験願提出日
- 9月
 - 1火 高野町との友好協力協定締結
 - 2水 臨床宗教養講座開講日
 - 10木 アンバードカル博士記念碑除幕式・記念式典
 - 22水 学位記授与式
 - 23月 保護者懇談会
 - 24日 集中講義(9/18)
 - 25日 日本印度学仏教学会第66回学術大会(9/20)
 - ※敬老の日
 - ※国民の休日
 - ※秋分の日
 - 別科スピリチュアルケアコース公開講座
- 10月
 - 2金 後期受講科目履修変更期限
 - 12月 ※体育の日(通常授業日)
 - 13火 卒業論文目次届・修士論文目次届提出期限(正午)
 - 17土 第三回弘法大師の足跡を訪ねよう(10/18)
 - 19月 秋季通信スクーリング(10/25)
 - 21水 報恩日
 - 31土 学園祭(11/1)
- 11月
 - 1日 オープンキャンパス
 - 2月 伝法灌頂
 - 3火 ※文化の日
 - 7土 併設寺院指定校入試
 - 11水 臨時教授会
 - 18月 ※勤労感謝の日(通常授業日)
 - 23月 公募制推薦入試
 - 28日 別科スピリチュアルケアコース面接試験
 - 30月 博士論文提出期限
- 12月
 - 2水 臨時教授会
 - 16水 教授会
 - 21月 報恩日
 - 23水 追悼法会
 - 24木 ※天皇誕生日
 - 30月 冬季休業開始

西本有法、白馬義文、林光徳、細谷有勝、本多清法、宮下栄隆、吉井良弘



四三会

和歌山支部総会

高野山大学同窓会和歌山支部では、平成27年6月27日(土)県民交流プラザ和歌山ビッグ愛に於きまして、平成27年度公開講座並びに支部総会を開催致しました。総会に先立ち作家で本山布教師でもあります家田莊子様より『家田と行く四国遍路』と題しまして公開講座を開庭させて頂きました。一般聴講者を含め41名もの参加を頂きました。その後、支部総会に入り塩谷光隆学部長より、先に開催された高野山大学同窓会役員会・総会の報告と挨拶がなされました。次に藤田光寛高野山大学学長より大学の現状報告と今後の方針等が説明されました。また飛鷹全法同窓会事務局長より、大学同窓会の今置かれている現状の報告と今後の方向性等が報告されました。続いて議長を選出し、新役員はじめ

平成26年度の事業会計報告、及び事業計画、予算案等の議案を滞りなく承認頂き、総会が終了となりました。総会終了後、市内の会場に場所を移して懇親会を行い、学長、事務局長を交え卒業年度を越えて懇親を深めました。(事務局 加藤大恵 記)

南山在学生徒激励会

高野山真言宗淡路宗務支所主催による南山在学生徒激励会が、平成27年7月1日(水)午後1時より高野山大学において開催され、学生2名を含む7名の出席がありました。竹原宗務支所長より南山の学生に奨学金が授与された後、約30分学生を交えて歓談しました。尚、本学からは藤田光寛学長、後藤学務課長、学務課 北が出席しました。(学務課 北法弘 記)



南山学徒激励会

広島県同窓会

平成27年7月6日(月)尾道の老舗料亭・宮徳にて、高野山大学広島県同窓会が開催されました。広島県同窓会会長の観音寺 廣安俊道僧正、福山の長尾寺・藤井正純僧正、呉の照明寺・高塩光淳僧正、廿日市の正覚院・菅梅素弘僧正、海田の大師寺・濱田公麿僧正の高僧の方々をはじめ、中堅・若手・新人の面々、また大学からは藤田学長、和田事務局長、飛鷹事務局長の3名のご参加をいただき、総勢20名の盛大な同窓会が行われました。広島県では、広島尾道福山の3地区の持ち回りで毎年開催しており、一年をふり振り返りながら自坊での奮闘話をご披露いただき、和やかな将来の大学のあり方や、宗教者としての道筋、また日々の法務活動をあらためて見直せる有意義な時間を過ごしました。(事務局 亀山大路 記)



広島県同窓会

美作支部総会

高野山大学美作支部(主原啓隆新支部長では平成27年7月9日(木)岡山県津山市の鶴山ホテルで26名が出席し、平成27年度の総会を開催した。

寮監さんのお話で盛況でありました。翌3日は午前10時より仁和寺を金堂において、河西孝典部長御導師のもと、福田敏勝経頭により追悼法会を厳修し、参香の後、高野山大学副学長山脇雅夫先生よりご挨拶を頂き、支部長より謝辞にて法会を終え、仁和寺を拝観し、観音堂の瓦奉納をして散会となりました。(事務局 福森暢瑞 記)

兵庫県支部総会

爽やかな秋天に恵まれた10月7日(水)、高野山大学同窓会兵庫県支部(藤村隆淳会長)総会が、明石海峡大橋を見下ろす神戸市舞子の地において41名が出席し開催された。同会では会則に



兵庫県支部総会

任期満了による役員改選では和田捷海支部長、松浦本澄理事、近藤久広理事に伴い、新支部長に主原啓隆師、副支部長に芝原秀師(再任)、近藤久広師、新理事に大久保知昭師、高峰秀光師、顧問に和田捷海師とそれぞれ承認された。続いて高野山大学の西忠教授による『高野山大学の現状と学生募集』と題した報告と依頼があり、地元同窓生の質疑があった。学部1回生からの新入学生が募集定員の7割を越えないと私学助成金が打ち切られる事態にあることを聞いて衝撃を受けた。記念撮影に引き続き内海照隆同窓会会長、下西忠教授、飛鷹全法同窓会事務局長を囲んで内海会長の乾杯の発声、校歌斉唱等和やかに懇親会がもたれ旧交を温め、主原新支部長の挨拶で散会した。

出席者 順不同敬称略) 和田捷海、杉井永明、安東智教、若田昭道、宮地甫守、野條泰圓、



美作支部総会

高野山大学同窓会美作支部総会

備前支部総会

去る平成27年9月2日(水)高野山大学同窓会備前支部では、岡山全日空ホテルに於いて、和田友伸法人本部事務局長と飛鷹全法同窓会事務局長をお迎えし、会員30名の出席のもと平成27年度総会を開催した。福田寺全巨備前支部長の挨拶により議事が始まり、平成26年度の事業と決算の報告、本年度の事業計画と予算案を審議し全会一致で承認された。続いて和田友伸法人本部事務局長より大学の現状報告と今後の方針についての説明を頂き、出席者からの意見質問を交えた協議となった。引き続き、今村寛玄師の乾杯の発声にて懇親会となり、和やかに歓談して同窓会の健康と高野山大学の発展を祈念し盛会のうちに散会した。(事務局 正影光悠 記)

滋澤弘広、明榮昇應、明榮俊應、片山弘顕、主原啓隆、大久保知昭、表江智彦、近藤久広、加賀尾臨高、豊福晃正、滋澤弘典、清水真道、平礎信男、岡村法純、芝原秀光、山内大梁、片山弘純、安東智教、永幡智明、木下有正 (事務局 木下有正 記)

三九会

10月1日(木)2日(金)、奈良県橿原市 橿原口イヤルホテルを会場として「三九会(高野山大学昭和39年卒業生同窓会)が行われました。参加者は夫人を含め28名でした。夕刻より食事を兼ねて懇親会が行われました。参加者全員、卒業以来50年を経て高齢者となりましたが、この時ばかりは年齢を忘れ50年前の学生時代にもどり、大いに歓談いたしました。堀井隆川君から全員にすばらしいプレゼントをいただきました。

従って2年に1回行われるものである。午前11時からの県下同窓生総会に先立ち、支部理事会が行われ、平成26年4月から当りまでの支部事業報告、中間会計報告、監査報告が行われ、理事會総会共に提案事項が承認された。続いて、高野山大学教授・下西忠先生を招請しての記念講演会が「文学におけるあいさつ―西行と芭蕉―」の話題のもと開かれた。先生の教え子も参加して、懐かしくもユーモアあふれる先生の力のごもった講演に聞き入り。その後、場を懇親会に移し、先生を囲んで、藤田学長、和田法人本部事務局長、飛鷹同窓会事務局長御列席のもと盛大に執り行われた。特に今回は、大学同窓会本部のご厚意もあって、CDによる懐かしい大学のプロモーションビデオがバックスクリーンに放映され、極めて好評であった。宴は終始和やかな雰囲気にて包まれ、世を超えての旧談に同時時間を忘れての暫しをおくった。記念写真の撮影後、最後に全員で校歌を斉唱して、二年後の再会を誓ってお開きとなった。

東北支部総会

10月24日(土)に平成27年度高野山大学東北支部総会を、宮城県仙台市の仙台南サンプラザホテルにて開催しました。総会では、はじめに間野英樹支部長から、「東北支部総会には東日本大震災等諸般の事情により、長い間開催できなかったことは支部長はじめ役員の見解で、あり、会員の皆様深くお詫び申し上げる。今後は本日の開催を契機として、支部の活性化を進めて参りたいので、皆様のご理解とご協力をお願いしたい」との挨拶がありました。議事では、会則および役員改選について協議しましたが、役員は全員留任とし、今後の支部活性化等について検討を続けることが決議されました。議事のあと、本総会の基調講演とし



東北支部総会

和恒会支部総会

和恒会支部は、大学紫雲寮寮監和泉全恒先生が昭和49年4月より昭和62年



三九会

第2日目は朝から橿原神宮へ参拝、橿原考古学研究所付属博物館を見学した後、五條、生蓮寺にて「三九会」先住諸霊の供養をしました。その後、昼食会場へ移動して食事をとり解散しました。お土産は大和の名産「柿の葉寿司」でした。来年は北海道が担当と決まりました。出席者(順不同敬称略) 堀井隆川夫妻、武田義昭夫妻、松本文秀夫妻、和田捷海夫妻、寺島慎佳夫妻、井口義弘夫妻、田村清光夫妻、高畑公信夫妻、井村正身、江口栄子、所隆雄、師井弘治、米本敬敏、安東智教、明榮俊應、岸越秀明、丸井弘昌、井上雅雄、芝原賢、北川慈照 (担当 北川慈照 記)



和恒会支部総会

3月までに寮に在籍し、本会の趣旨に賛同者を以て組織されました。和泉全恒寮監が平成25年3月24日に遷化されました。本年は三回忌を終えられましたので、去る10月2日(金)ホテルグランドヴィア京都・15階中華料理六本木楼外楼において、午後6時より総会を開催し、役員改選と規約変更について審議して、承認されました。和泉工三コ夫人並びに長男の全朗氏、故・磯田有海夫人の光雲氏の出席を頂いて、懇話会を開催致しました。最初に物故せられました18名の方々のために般若心経巻、光明真言御宝号をお供えして、支部長である福田敏勝より挨拶があり、副支部長の河西孝典御室派総務部長より、翌日の仁和寺金堂での法要等についての説明、挨拶の後、川本明信氏の献杯の発声により、徳ぶ会の始まりとなり、和泉工三コ夫人よりお礼の言葉を頂き、全朗氏より挨拶を頂き、その後参加者の自己紹介があり昔話の中、次年度は11月3・4日に神戸で開催することが報告されましたので、中締めとなり、席を二次会々場に移り

同窓会費を送っていた方々

平成26年6月1日〜平成27年11月30日現在 ※氏名下の〇内の数字は会費の納入金額(単位千円)を表します。(順不同・敬称略)

Table listing members and their contribution amounts by prefecture (e.g., 北海道, 愛知県, 東京都, etc.).

Table listing members and their contribution amounts by prefecture (e.g., 北海道, 愛知県, 東京都, etc.).

個人情報の取り扱い
同窓会では、大学から提供を受けた会員の個人情報を、次の場合を除き第三者に提供いたしません。
① ② ③ については、依頼人より個人情報利用誓約書を提出して頂きます。
④ 同窓会役員会が提供を認めた場合

同窓会事務局からのお知らせ
個人情報の取り扱い
同窓会では、大学から提供を受けた会員の個人情報を、次の場合を除き第三者に提供いたしません。
① ② ③ については、依頼人より個人情報利用誓約書を提出して頂きます。
④ 同窓会役員会が提供を認めた場合